

平成23年度 第3回社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日時 平成23年12月14日（水） 14時00分～16時00分
- 2 開催場所 宇都宮市役所 14A会議室
- 3 出席委員 13名  
廣瀬委員長，福田副委員長，宗像委員，小林委員，徳原委員，櫛淵委員，荒井委員，  
吉田委員，伊藤委員，石澤委員，河田委員，石川委員，阿久津委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 議 事
  - (1) 報告事項
    - ①第42回関東甲信越静社会教育研究大会の参加報告について
  - (2) 協議事項
    - ①「(仮称)宇都宮市成人教育推進計画」の策定について
    - ②本市における成人教育の現状と課題について
- 7 閉会
- 8 発言の要旨

廣瀬委員長 平成23年度第3回目の会議です。本日の会議では，報告事項と協議事項の2点がございます。報告事項は，つくば市で開催された関東甲信越静社会教育研究大会についてです。協議事項では，成人教育の計画の現状と課題について議論していただきたいと思います。

限られた時間ではございますが，忌憚のないご意見をいただきたいと思  
います。

それでは，報告事項の「第42回関東甲信越静社会教育研究大会の参加報  
告について」大会に参加された吉田委員と事務局から報告願います。

事務局 【資料1について説明】

吉田委員 社会教育というのは，日常の危機管理や安全安心を求めること，シンポジ  
ウムの中でそういった視点が欠如していたのではないかという指摘があり  
印象深く思いました。まちづくりの中にも安全安心のための危機管理の視  
点を組み込んでいくことが求められているという意見があり印象に残りま  
した。

また、歓迎講演の中で教育というものを木を植えることに例えて100年かかると表現していました。木は100年かけないと使える太さにならない、教育は親から子へ子から孫へと3代かかってもものになるということでした。

新しい公共について、当事者としての意識をもち、関わる力、関係する力を一人ひとりが育み協働という手法でまちづくりの形成に役立てると良いという話もありましたので報告させていただきます。

一つひとつがためになる話でしたが、人と触れ合い、会話や相談事などの中で、常に問題意識を持ち続けることが大切ではないかという提案が非常に耳に残りました。報告は以上です。

廣瀬委員長

非常に要領を得た報告、感謝いたします。

先ほどの報告に対してご意見ご感想はございますか。

非常に得るものの大きい大会ですので、皆さんも委員在任中にぜひお出かけいただければと思います。

次に協議事項の1「(仮称)宇都宮市成人教育推進計画」の策定について」事務局から説明願います。

事務局

【資料2について説明】

廣瀬委員長

事務局に確認しますが、本日は主にどの部分について話し合えばいいですか。

事務局

成人教育の現状と課題、とりまく状況等についてご意見をいただきたいと思っております。

廣瀬委員長

少し自由に意見交換をしたいと思っております。ここで言う成人教育とは、行政が大人を強制的に学ばせるものではなく、学校教育とは違う性質を持ったものです。成人教育という表現についてもご意見があらうかと思っておりますが、大人を教育するというのではなく、大人の学びを支援するという意味で理解していただきたいと思っております。学ぼうとする大人の環境をつくってあげること、学びやすい雰囲気を作ってあげることなどが行政の役割ではないかと思っております。成人教育を取り巻く状況、社会の動向、大人の学習者のイメージ、今後必要な講座など、皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。まず、石澤委員いかがでしょうか。

石澤委員

学びというと、鉛筆を持って本を読んでというイメージを持ちますが、近所の人と会って井戸端会議のようにしゃべる中でも、「そういう考えがあったのか」と学びや気づきがあると思う。学ぶためには環境が必要というものでもなく、人が出会い、和気あいあいと話す中で、学びや気づきは日常

にもあるのではないかと思います。

廣瀬委員長

重要なことを言っていただいたと思います。近所で会ってしゃべるという日常生活の中に学びがあるということは成人教育の本質であると思います。講師と受講者がしっかりと区別された講演会などでは、大人は学んでいないのも事実です。大人同士がお互いに学びあう相互教育というのが社会教育の本質ですので、コミュニティの中で大人が学ぶということについて、計画の中にも取り入れていただきたいと思います。

福田副委員長

普段問題を感じていなければ学習しようと思わないのではないかという気がします。いま、社会の中でここが足りないとか、そういった気づきを促していかなければ、環境を整えても学習しないのではないかと思います。気づきを促す取組が必要と感じました。

廣瀬委員長

どうやったら大人は気づくのでしょうか。大人が気づくときはどんな時なのでしょう。人間は、大きなトラブルやショック、問題などがあつた時に気づくことがあります。気づくための学習機会や気づきを促す工夫をどうしていくかは成人教育に欠かせないことだと思います。

河田委員

昔のようなコミュニティが今は破壊されている。頑張つて活動している人の影に隠れている問題のある人を一人でもひっぱりだすような、関わるための環境づくりが必要だと思います。自分が関わつたもので、全国スポーツレクリエーション祭がありました。たくさんの人達にスポーツとは何かと考えさせ、味わう環境、機会をつくることができたと考えています。人が交流する機会、集まる機会をつくり、気軽に出てこられる、出されるではなくて、行きたい、行ってみようかな、と思つてもらえるような工夫があると良いと思います。そして、そこに来た人に行政から発信できる仕組みをつくことができれば、関わるための環境づくりにつながっていくのではないかと思います。現状は行政が良いプログラムを作つても、人を集めるのに苦労しているのです。教育とか固いものを取り払うような工夫も必要だと感じています。

廣瀬委員長

スポレクは18万人もの人を集め、大変な成功に終わりました。様々な市町村で分担して実施されたことで、その土地でのスポーツの定着やこれをきっかけにスポーツを始める人など、スポーツの裾野が広がる意味でも大きな役割を果たしたと思います。

配布資料の中にある「人づくりに関する意識調査の結果について」が今の話題と関連が深いと思いますので事務局からご説明いただけますか。

事務局

【配布資料について説明（教育企画課長）】

廣瀬委員長	<p>大人の問題についても何度も出てきていますし、重要なテーマであると思います。大人のモラル・マナーや個人主義の浸透などがコミュニティ意識の希薄化などにつながっていることも分かります。より丁寧に分析するといろいろなことが分かるかもしれません。非常に興味深い調査だと思います。この調査の結果も含めてご意見はありますか。</p>
吉田委員	<p>家庭の教育力についてですが、家庭内の会話が少なくなっていると感じています。何かの本で、祖父母の代が孫への教育に影響があると書いてありました。また世代間の同居が少なく、核家族が多くなってきています。この二つのことが絡み合って、親として子どもに教育すべきことを自分が受け継いでいないから子どもへ教えられないということが起こっているのではないかと感じました。まちづくりに参加している役員からも、親から物を聞く機会が少なくなっている、家庭内の会話が少ないことを実感しているという意見も聞きました。農家も多い地域なので、正月の飾りなども、親から作り方を受け継いでいないから、子どもに伝授できないということがあります。そういうことを含めて考えた時にやはり会話は重要であると考えます。年寄りの話は聞かないが、横、同世代間の話は聞くという風潮が強まっていますが、人格的、倫理的なものについては世代を越えて上の世代から学ぶべき、引き継いでいくべき部分も多いと感じています。こうした中で、家庭内でいかに会話を増やしていくか、そのような仕組みをどのように作ったらいいのか、そういった部分が今欠けている部分ではないかと思っています。</p>
廣瀬委員長	<p>伊藤委員は地域コーディネーターをやられていますが、家庭内の会話についてどう思われますか。</p>
伊藤委員	<p>私が預かっている子ども達はとても素直で、ボランティアなどいろいろなことに興味津々です。そのような子どもたちが、どうしてこのような大人になってしまうのか不思議に思います。まず、お母さん方が挨拶できないというところから始まり、親が親になれていない家庭が多い気がします。子どもに甘えている親、子どもが親の付属品のようになっている家庭もあります。またその逆で子どもを溺愛しすぎている家庭もあります。人はマイナスな部分、マイナスな意見にひかれる部分もあるので、それをどう阻止するかが難しいと感じています。</p>
櫛淵委員	<p>吉田委員の家庭内の会話との関連ですが、「今の若い人は・・・」と私たちの年代の人は言いますが、その若い人たちがついてこないということは、私たちにも原因があるのではないかと感じています。友人の話ですが、息子夫婦が子どもの入学に合わせて、同居を申し込んできたときに、「まだ早い」と断ったところ、別のところへ家を建ててしまい、老夫婦の二人暮らし</p>

しで寂しくなってきたという話をしていました。私たちの世代も、わずらわしいことを避けて自由に夫婦二人で暮らしたいと考えるのかもしれませんが。もうひとつは、家庭内の会話がなかったばかりに、稲刈りを頼んでいない知らない人にコンバインでお米を刈られ盗まれた話もありました。こういったことは家庭内の会話が少ないことが原因ではないかと思います。

吉田委員 民生委員もやっていますが、独居老人が多いということで確認に行きますと、実際は同じ敷地内に子どもが家を建てていたり、1階と2階で別れて住んだりということがあります。配偶者が亡くなれば、住民票上は、独居老人という形になってしまいます。住民登録などのシステムのなものも関わってきますが、そういったことを助長しているようにも捉えられてしまうと思いますし、家庭内の意思疎通、人間関係をわずらわしいと思う傾向が見えます。

伊藤委員 母子家庭にしてもそう思います。実質の父親がいるにもかかわらず母子家庭の登録であったり、子どもが、パパがいると言ったり、複雑な家庭環境が増えています。そういった中で家庭内の会話というのもまた難しいのかもしれません。

吉田委員 そういった様々な要因も踏まえて、家庭内でどのように意思の疎通、会話を増やしていけるかというのがポイントのような気がします。

河田委員 さきほどから社会の教育力としての家庭の問題の話が出ていますが、家庭をどうしようということはプライベートな部分ですし、社会の流れもあるので、なかなか難しいと思います。いろいろ問題はあるけれど、社会ではその問題を解決するためにどう対応していけばいいのか、どのような環境、学習プログラムなどを作ればよいのかを考えていかなければならないのだと思います。家庭をどうしようかという話は啓蒙していくことはよいと思いますが、具現化していくためには啓蒙だけでは足りない部分もあり難しいと考えています。

吉田委員 社会の中でも、どこに問題があるか認識することは重要だと思います。家庭の問題に入っていくことは難しいと思いますが、その問題を社会の問題としてひっぱり出すことが必要か、またそこまでしなくとも影響を与えることができるかなどといったことについて議論していくことは必要ではないかと思います。

河田委員 同感です。

石川委員 アンケートの中で大人に感じる問題として、ルールを守れない、モラルが

ないという回答が80%という結果を受けて、たとえば子どもたちがどういったところでそのように感じるのだろうかと考えてみました。そのときに、車を運転していてウィンカーを出さずに車線変更する車があったり、ショッピングモールなどで出口専用の場所に車が入って来たり、交通マナーの悪さなどは、子どもも感じているのではないかと思います。仕事で留学生に日本語を指導していますが、留学前に宇都宮について調べたオーストラリアからの留学生が、日本で一番交通マナーが悪い都市と言っていました。吉田委員から危機管理や安全安心という話がありましたが、交通や災害、放射能も含めた環境問題など、全年代が共通して問題意識を持っているテーマで、問題提起をして、考え、何かを生み出せるようなイベントがあると良いと思います。

徳原委員

これまでの話を聞いて、今子どもたちを育てている自分達の世代に問題があるのではないかと責任を感じました。しかし、震災時には、様々な支援活動に同世代のたくさんの仲間が参加してくれました。何かをしたいという気持ちはあるのだと思います。社会教育のメニューやプログラムを一般の人を巻き込めるようなものに工夫していくということが現実的なのではないかと思います。この場で、コミュニティが、その根幹である家族が、という問題点を議論することももちろん必要だと思いますが、我々としては、コミュニティをつくる仕掛け作りというものを考えていくことが必要なのではないかと思います。若い人の意見を取り入れ、まずはコミュニティをつくること、若い人たちはつながりを拒絶しているのではなく、きっかけもないという状況なのだと思います。難しいテーマや昼間の時間帯だと人は来ないと思いますので、夜の時間帯などで皆の興味を引くもの、それをまちづくりなどのアクションにつなげられるものを行うことで、関わるという流れをつくること必要です。最終的に、セミナーからその後にイベントや発表会をやるなどの方法で、勉強しながら集まるような仕掛け作りを考えることが大切だと思います。

廣瀬委員長

同感です。マナーが低いから、マナー講座をやる、というのでは誰も来ないですし、あまり意味はないと思います。まちづくりやPTAなどの活動に参加しながら、大人は、人とのつきあいの中で、マナーやルールを習得していくのだと思いますから、そういったコミュニティをどう作っていくかを考えることは非常に重要だと思います。

ここでお手元の資料、「本市における成人教育の現状と課題について」事務局でまとめたものがございますので、本日の議論も踏まえて、どのように整理しているのかをご説明願います。

事務局

【資料3について説明】

石澤委員 成人教育に取り組んでいくことと同時に、もっとすぐにできることがあるのではないかと考えています。お年寄りの話を聞かないのは、自分にもかかってきますし、交通マナーについても、自分もウィンカーを忘れて出さないときもあります。もしそういうときに、責められると萎縮してしまいます。人は迷惑をかけないように生きるよう教育されますが、独居老人も、子どもに迷惑をかけないようにしようと思っているのかもしれませんが。でも、迷惑をかけてもらいたいと思います。迷惑をかけてもらって、いろいろ気づくこともあると思います。ダメでも、「そういうことあるよね。」など許容してくれる、そんな感じがあるとよいのではないかと思います。

小林委員 家庭がバラバラで、仲が良い友達とは関係が強いのですが、年代を越えて関係を持つことは難しいと思います。今の社会はわずらわしいものは切り捨ててしまう、人とのかかわりを持ちたがらない傾向にあります。それを集めるのは大変なことです。学校でも震災の時、親への連絡がつかなくて大変な思いをしました。連絡がつかなくても、近所や子供会で協力できるようなシステムを考えたほうが良いのでP T Aと相談しているところです。自分の子どもだけでなく隣近所の子どもも面倒を見るというつながりも大切だということをこのようなチャンスに伝えていくことが重要だと思います。イベントだけでなく、地道な動きを掘り起こすことが重要です。地域で、未来塾というものを作って、次の世代の人を集めて、10回ぐらいテーマを決めて集まっています。学校としても、教育について話せる機会を作ってもらったと感じており、そのような動きが出てくる仕組み、ひとつひとつの動きが必要だと思います。

宗像委員 ここ数年で成人式のありようがずいぶん変わったと感じています。やり方によって、成人者が変わることを目の当たりにしました。行政側の仕掛け方によって随分違うということは、ここ10年くらいの式を見て感じていますので、新成人が関わるような機会はほかにないのだろうかと思っていました。また、地域参画についての意識は、人によってずいぶん違うと思います。地域の先輩がゴミ拾いをしているのを見て、自分も時々やるようになりました。講座もいいと思いますが、地域でそのような姿を見せる場を作るのも大切だと思います。

阿久津委員 昔は誰もが教えられた、小さな親切運動の精神が忘れられて、意見が分散しているのではないのでしょうか。もう少し一極に集中したほうがよいと思います。私が住んでいる泉が丘地区には地域のスポーツクラブがありますが、合唱や習字など、地域の人が教えることも良いのではないかと思います。既存のものを見直しながら、改良点があるかどうかと見直していくことも必要だと思います。

荒井委員

今の人は結婚しないが、しなくても済む社会になっているのではないのでしょうか。昔は夫婦で助け合うという意識がありましたが、今は結婚が大事だという意識が薄いように感じます。人と係わることがわずらわしいということで、恋愛をしない、人を信じない、そういった現代の若者には、家庭を持つという本来の意味をわかってもらうことが大切ではないかと思います。

また、大変満たされている人は、社会貢献・ボランティアの喜びなどは、あまり考えないのではないかと思います。そういった人たちをどのように呼び込むかが課題だと思います。

私の会社では、高卒の人を採用するとその後も学び続けて優秀な人材に育ちますが、大卒の人はもう一安心と勉強しない人が多いように感じます。また、経験してきた人間同士が会話をすることコミュニケーションが高まっていくという感じがしています。

まちの中でよく「エチケットとマナーを守りましょう」といった内容の看板を見かけます。ルールは絶対守らないといけないものですが、マナーは個人差があり、人によって違うと思います。一人ひとりが自信を持つことで良い大人の社会になっていくのではないかと思います。

福田委員

資料3の問題に出てくるような人は、「これでいいじゃない」と思っているから気づきがないのだと思います。家族団らんの食卓で、携帯を使うことなどを親がいけないと気づかないと、子どもは親の背中を見て育つから受け継がれていってしまいます。問題に大人が気づく仕組みが必要です。大人が子どもを育てる社会環境になっていないのではないかと思います。大人が子どもを育てるために、今私達がしっかりしなくてはならないというメッセージを持たせると、成人教育・社会教育の必要性が感じられるのではないのでしょうか。講座などで学んだことから、社会問題と照らし合わせて、「ああそうか」と気づけるようなところがあると良いと思います。また科学的な根拠を入れるとわかりやすいので、説得力の一つとして使うと良いと思います。

廣瀬委員長

櫛渕委員が、自分の世代が問題だと言ったのが印象に残りました。普通は「今の若い人が悪い」と言って片付けてしまう、なかなか言えないことだと思います。このようなところから気づきが始まるのだと思います。本日の議事は以上になります。活発な議論ありがとうございました。